



砥粒加工学会 学会活性化フォーラム
in ABTEC2025



「日本のものづくりはどこに向かうのか？(料理の鉄人のススメ)」

企画: 砥粒加工学会 若手の会「次世代ものづくり技術研究会(通称:山椒魚)」

砥粒加工学会 ABTEC2025 実行委員会

＜開催趣旨＞ 砥粒加工学会では、若手研究・技術者と学生が参加しやすい活発な学会にすること、また、学会を将来にわたって継続的に発展させることを目的として、学会活性化フォーラムを開催してきました。ABTEC2025 では若手の会(山椒魚)と ABTEC 実行委員会の共同企画として、東北大学名誉教授 厨川常元先生の講演会を開催いたします。厨川先生は、従来からの機械加工を礎としつつ、ナノ精度を超えるピコ精度加工を提唱し、M4 プロセス(Micro/Meso Mechanical Manufacturing)や機能創成加工と呼ばれる新たな研究分野の開拓とその体系化を実現されてきました。また、産学連携にも積極的に取り組まれ、主宰される研究会や委員会を通じて研究成果の技術展開を推進されてきました。現在は、株式会社牧野プライス製作所の特別顧問・フェローとしてご活躍されています。本講演では、これまでの研究・開発成果を社会実装へとつなげるための「思考術」についてご講演いただきます。講演後には、企業賞・賛助会員賞授賞式、交流会を開催致します。積極的に活躍する若手研究・技術者と学生の参加を募ります。

日 時：2025 年 9 月 3 日(水) 16:20～19:30 (砥粒加工学会 ABTEC2025 第 1 日目)

会 場：関西大学 千里山キャンパス 第 4 学舎 4 号館(予定)

内 容：

16:20～17:30 講演 「日本のものづくりはどこに向かうのか？(料理の鉄人のススメ)」

(株)牧野プライス製作所 特別顧問・フェロー

東北大学共創戦略センター 特任教授(名誉教授)

厨川 常元 先生

＜講演内容＞ 本講演では、日本のものづくりの未来を、多角的な視点から考察します。半世紀にわたる研究と社会実装の事例をもとに、ものづくりの本質に迫り、究極の形状精度や高付加価値加工の可能性を紹介します。さらに、噴射加工を活用した成膜技術や歯科治療への応用についても説明します。技術革新が社会に与える影響を考え、持続可能なものづくりの方向性を探るとともに、研究・開発の魅力を共有し、日本のものづくりの強みを未来へつなげるヒントを提示します。

18:00～19:30 交流会 (会場:関西大学 千里山キャンパス(予定))

○交流会の参加費：1000 円(学生の方、非会員の方も含め、一律料金です。飲み物(アルコール含む)、軽食を準備しています。)

○交流会の参加資格：実年齢が 40 歳以下、ならびに気持ち年齢が 40 歳以下(自称)の若手研究・技術者は大歓迎。ただし、実年齢が 40 歳以上の参加希望者は、40 歳以下の若手を積極的に引率してご参加願います。学生の参加も大歓迎です。

○参加申込方法：準備の都合がありますので、学会活性化フォーラムの交流会にご参加希望の方は、ABTEC2025 公式 WEB サイト(<https://www.scoop-japan.com/kaigi/abtec/>)から事前登録して下さい。